

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2024 Jul

第124号

調査
発掘
遺跡
整理
紹介

村上市上野遺跡、上越市館遺跡

企画展1「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」紹介、県内の遺跡・遺物



企画展1「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」



2024年度 本発掘調査遺跡・ 整理遺跡の紹介

本発掘調査は村上市上野遺跡、南魚沼市金屋遺跡・六日町藤塚遺跡、柏崎市丘江遺跡・山崎遺跡、上越市館遺跡・堂古遺跡・二反割遺跡の8遺跡、整理作業は南魚沼市六日町藤塚遺跡、柏崎市丘江遺跡、村上市上野遺跡の3遺跡を実施しています。

かみの
上野遺跡 (村上市猿沢・檜原)



縄文時代後期前葉（約4,000年前）の大規模な集落で、200棟を超す建物跡を調査中です。集落を横断する流路の跡は、廃棄場に利用されており、多くの遺物が出土しています。

むいかまちふじづか
六日町藤塚遺跡 (南魚沼市余川)



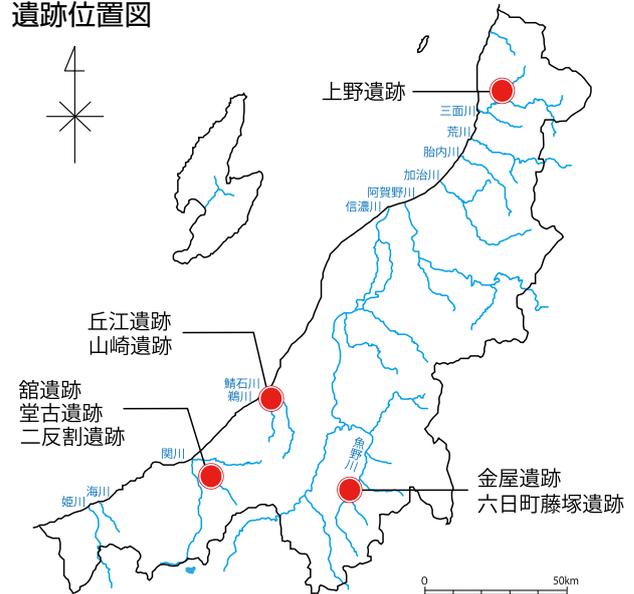
古墳時代中期から鎌倉時代にかけて断続的に営まれた集落跡です。建物の柱穴と思われる小さな穴（ピット）が多く見つかっています。

どうこ
堂古遺跡 (上越市米岡)



鎌倉時代（13世紀）と室町時代（15・16世紀）の二時期の集落跡です。過去の調査で、掘立柱建物の柱穴や区画溝・井戸が多く見つかっています。

遺跡位置図



おかえ
丘江遺跡 (柏崎市田塚)



弥生時代後期と中世の複合遺跡です。16世紀代の水田跡の調査を行い、畦畔の検出から当時の水田区画を復元しています。写真は畦畔の断面を記録している様子です。

むいかまちふじづか
六日町藤塚遺跡 (南魚沼市余川)



古墳時代の土器集積遺構や飛鳥時代～中世の遺構・遺物を検出しました。現在、3Dスキャナを活用して土器の実測作業を進めています。



2024年度
発掘調査
遺跡の紹介 1

かみの 上野遺跡

縄文時代後期の特殊な掘立柱建物

所在地：村上市猿沢・檜原さるさわ ひばら

三面川の支流・高根川右岸の扇状地に立地する上野遺跡では、縄文時代後期前葉（約4,000年前）の集落を調査しています。これまでの調査成果により、集落の範囲、居住域と廃棄域の関係が把握され、たてあな掘立柱建物、ほったてばしら平地建物、へいち敷石建物、いしたてもの焼人骨集積土坑、しょうじんこつしゅうせきどこうフラスコ状土坑など12,000基を超える遺構を検出しています。

本遺跡では、縄文時代の典型的な建物である竪穴建物が極めて少なく、柱が立っていた跡である柱穴（ピット）が多く、高い密度で検出しています。柱穴から建物構造を把握するためには、柱の配置や深さによる各柱穴との関係性の把握がより重要です。そのため、発掘現場での検討とともに、柱の新旧関係の把握や測量図面による配置等に基づいて建物構造を検証しています。

今回、この作業によって明確になってきた掘立柱建物について紹介します。

この掘立柱建物は4本の柱を長方形に配置し、4本柱の中軸に沿って片側に直交する4基の柱穴

を配置する「凸」字状の珍しい構造です。時期は縄文時代後期前葉です。

建物全体の大きさは長軸8.8m×短軸6.5mと大型です。柱の痕跡は直径25cm～40cmほどですが、同じ場所で6回程度の建て替えが行われたことで、柱穴の規模は直径2m、深さ1.5mと大きく深くなっています。

この掘立柱建物の柱穴間の中央を通る軸線には、本遺跡で注目されている焼人骨集積土坑があります。

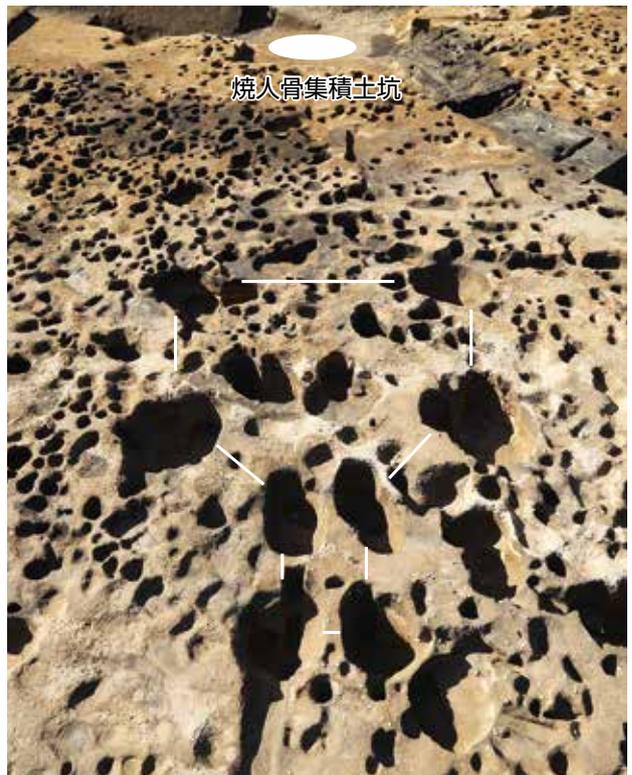
この掘立柱建物は同じ位置に複数回の建て替えが行われていること、他の建物と比べて規模が大きいことなど、特殊な建物であると考えられます。

このように上野遺跡は縄文時代後期の大規模集落であるとともに、特別な建物を有する集落であることが見えてきました。今後、集落全体における位置づけや出土遺物の検討により、具体的なあり方を明らかにしていく予定です。

（加藤元康）



特殊な掘立柱建物



焼人骨集積土坑との位置関係



2024年度
発掘調査
遺跡の紹介2

たて
館遺跡

11・12世紀の集落

所在地：上越市^{こまばやし}駒林・三和区^{さんわ}岡木^{おかぎ}

遺跡は、高田平野のほぼ中央に位置し、標高約15.8mの自然堤防上にあります。国道253号上越三和道路の建設に伴って2019・2020・2021年度に発掘調査を行っています。今回の第4次調査は水路工事に伴うもので、幅が狭くて細長い調査区になります。小規模なため、遺構・遺物は少なく、過去の調査結果と照らして調査しています。

遺跡の上層面から古代～現代、下層面から古墳時代の遺構・遺物が見つっています。遺跡の中心となるのは上層面で、出土した遺物の年代や量から11・12世紀が主体と考えられます。また第2次調査では、9世紀の遺構・遺物も見つかりました。写真④のような「田人」とも読める字が刻まれた内面黒色の土師器の碗も見つっていますが、集落の様相は不明です。

今回調査した11・12世紀の集落遺跡は、県内では調査事例が少なく、貴重な成果になります。遺構では、建物の柱穴、土坑、溝などが見つかりま

した。柱穴同士の組み合わせは不明でしたが、隣接する過去の調査範囲と合わせて、建物を復元する予定です。柱穴の一つから、写真③のように土師器の小皿がほぼ完形の状態で見つかりました。柱材の周りを埋めた土からではなく、柱材があった場所からの出土です。目的は不明ですが、建物を廃棄して、柱を抜いた後に意図的に入れたものと考えています。

写真②は2条の溝が並行するもので、道路面と側溝の跡と考えています。合併前の上越市と三和村の境に位置し、現代まで使用された痕跡がありますが、本来の構築時期は不明です。また、この遺構と近接して区画溝と考えられる比較的大きな溝が見つかりました。時期は異なりますが、この場が境として認識されていた可能性があります。

今後の整理作業で、遺構の配置や細かな年代が分かってくることで、集落の姿や性格がより具体的になってくると思います。（石川智紀）



①上越三和道路と調査区の近景（南西から）



②市町村境に位置する道路と側溝（南から）



③柱穴内の土師器小皿の出土状況（南から）



※刻書部分拡大

④第2次調査出土の古代の刻書土器



埋文
インフォ
メーション

2024年度企画展1

「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」 始まりました。

会期：4月20日（土）～11月24日（日）

2024年度企画展1「キラキラ☆施釉陶磁器の世界」が4月20日（土）に開幕しました。今回の企画展は、古代から近世までの越後・佐渡にもたらされた施釉陶磁器と流通に焦点を当てたものです。

古代は県内唯一の唐三彩や奈良三彩、二彩陶器、越州窯青磁、緑釉陶器、灰釉陶器等があります。中世では、白磁や青磁、青白磁、染付、天目茶碗、瀬戸美濃焼等があります。安土桃山～近世では、国産で初めて器に絵を描いたといわれる志野焼や朝鮮陶器、唐津焼、伊万里焼等を含め、約200点展示しています。

希少なものをいくつかご紹介いたします。

1つ目は糸魚川市清崎城跡（1681年廃城）出土の白天目茶碗です。天目茶碗は中国産、瀬戸美濃産ともに黒褐色の釉薬が掛けられたものがほとんどですが、乳白色の釉が掛けられ、腰と胴に大きな段差があります。「段付き白天目」に分類されるのでしょうか。いずれにしても出土品は希少です。名古屋にある徳川美術館所蔵の白天目茶碗は、重要文化財に指定されています。

次に佐渡市蓮華峯寺骨堂出土の絵唐津の甕です。3種類の文様が描いてあり、文章（解読不明）のようなものが描かれた面が図録や解説パネルに紹介されることが多いのですが、今回はあえて異なる面を正面に展示しています。縦に丸が3個ほど描かれ縦線が引かれたものは串柿を描いているといわれるようですが、はて、これは？ 串に刺された焼きまんじゅうでしょうか。担当者が勝手につけたニックネームは「めがね文様」です。3つ目の文様は斜格子が連なって描かれており、

絵垣と思われます。同市堂山遺跡出土古瀬戸灰釉瓶とともに、10月末までの展示になりますのでご注意ください。

3つ目は近世新潟町跡出土伊万里焼のネコ型水注です。水注は硯等に水を注ぐためのものです。ネコブームと言われて久しいですが、とてもカワイイです。色絵で文様が描かれています。三毛ネコかブチネコかちゃんと首輪も付けていますので飼猫です。現代のネコは首輪をつける程度ですが、江戸時代のネコは当初紐を付けられ、室内で飼われとても大事にされていました。ところが徳川家康が江戸に入り、市中のネズミ退治のためにネコを放すようにお触れを出したそうです。それから、ネコは町中に放たれ、迷子のネコや事故にあうネコも増えたそうです。水注には、ほかの動物型もあります。じっくりご鑑賞を。

関連講演会があと5回あります。第2回が7月28日（日）「古代の施釉陶磁器と流通」、第3回が8月18日（日）「中世の施釉陶磁器と流通」、第4回が9月29日（日）「近世の施釉陶磁器と流通」第5回が10月27日（日）「ジェンダー考古学（縄文編）」、第6回が11月24日（日）「近世新潟町跡出土の施釉陶磁器と北前船」です。会場（定員80名）は申込不要ですが、オンラインは90名限定でHPからの申込みが必要です。

第1回の6月23日（日）「新潟・東北出土の唐三彩」は終了しました。

5月19日（日）の特別講演会「山口遺跡出土唐三彩と遣唐使」には、大勢の方にご参加いただきありがとうございました。（佐藤友子）



白天目茶碗（糸魚川市清崎城跡）



絵唐津甕（佐渡市蓮華峯寺骨堂）



ネコ型水注（新潟市近世新潟町跡）



2024年3月26日 新潟県指定有形文化財 [考古資料]

県内の
遺跡・遺物
121

山元遺跡出土品 280点

遺跡所在地：むらかみししもすけふちあざ 村上市下助瀨字山元

遺物保管：村上市（縄文の里・朝日）

山元遺跡は越後平野の北縁に位置する標高約40m、平野部との比高36~37mの丘陵上に立地します。2005年に、日本海沿岸東北自動車道建設に係る新潟県教育委員会の試掘調査で発見された、弥生時代後期（約1,900年前）を最盛期とする高地性環濠集落です。集落は居住域と墓域にわかれ、居住域からは竪穴建物と掘立柱建物、墓域からは土坑墓と埋設土器などを確認しています。

山元遺跡から出土した土器は、表面に縄文が施された東北系土器が最も多く、そのほかに少量ですが、北陸系や畿内系などの西方の土器と北海道~東北北部に分布が見られる続縄文土器が認められます。県内では北部を流れる阿賀野川流域から北では東北系土器が、南の海岸平野部は北陸系土器が主体となります。東北系土器の文化圏で高地性環濠集落が確認されたのは山元遺跡が初めての事例です。石器は石鏃を中心に磨石類、環状石斧などが出土しています。

墓域からは副葬品あるいはお墓に係るものとして様々な遺物が見つっています。長軸2mで長

楕円形の形状をした土坑墓からはガラス小玉が72点（完形品68点、破損品4点）出土しました。県内の遺跡と比べ出土点数が突出して多いことが注目されます。

筒形銅製品は、円筒型で透かし孔が施されるもので、槍や剣の石突、あるいは杖に装着したものと考えられています。全国で10点しか見つからない貴重な遺物で、青銅製品の出土例としては日本最北となります。筒形銅製品のほか、ガラス小玉破損品や管玉、石鏃と剥片が土坑墓の底面より上位から出土しているため、埋葬に際して供えたか、あるいは撒かれたような状況が窺えます。

また、埋設土器からは小型鉄剣が確認されており、ガラス小玉、青銅製品、鉄製品はその分布などから西日本よりもたらされたと考えられます。

東北系と北陸系の文化圏の境界に位置する山元遺跡は、西方の文化や情報もたらされた北限であり、さらに、北方との関係性も認められることから、広範な地域間交流を示す重要な遺跡と言えます。（村上市教育委員会 大野淳史）



墓域出土埋設土器



ガラス小玉（前）、筒形銅製品（右後）、小型鉄剣

撮影 小川忠博



埋文にいがた 第124号 2024年7月26日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。